

国土交通省認定

ネダノン QF45 仕様書

【 床 用 】

(認定番号 QF045FL-0010)

索 引

1. 構造名	1
2. 寸法.....	1
3. 材料構成等.....	1
4. 構造説明図.....	4
(1) 床下地材の長辺方向の目地部をさね目地とする場合	4
①透視図	4
②断面図.....	5
③断面詳細図.....	6
(2) 床下地材の長辺方向の目地部を突付け目地とする場合	7
①透視図	7
②断面図.....	8
③断面詳細図.....	9
(3) 外壁との納まり (代表例)	10
(4) 床下地材の構造用合板長辺方向さね加工部の形状及び寸法	11
5. 施工方法	12

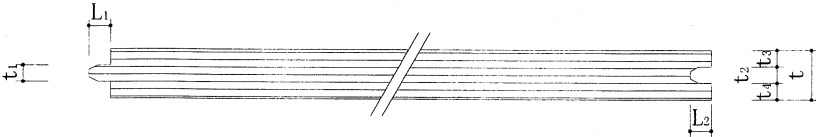
1. 構造名

構造用合板上張／強化せっこうボード下張／木製軸組造床

2. 寸法

床の各辺の長さについては、構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする。

3. 材料構成等

項目		製品仕様等																					
はり	構造用製材等	<p>規格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JAS に規定する針葉樹の構造用製材 ・ JAS に規定する構造用集成材 ・ JAS に規定する構造用単板積層材 ・ 平成 12 年建設省告示第 1452 号の第六に規定する無等級材又は第七に規定する木材 <p>断面寸法 (mm) : 105 以上×150 以上 かさ比重 : 0.38 以上 取付け間隔 (mm) : 1,000 以下</p>																					
床下地材及び受材 (受材は、床下地材の長辺方向の目地部を突付け目地とする場合に使用する。)	床下地材 (構造用合板)	<p>規格 : JAS に規定する構造用合板 (1 級又は 2 級) 形状 : 平板 厚さ (mm) : 28・30+0.8,-0.5 かさ比重 : 0.4~0.7 大きさ (mm) : 最小 900×1,800、最大 1,000×2,000 長辺方向小口の加工 さね目地の場合 : さね加工有り 突付け目地の場合 : さね加工無し 長辺方向さね加工部の形状及び寸法 形状</p>  <p>各部の寸法 (mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>厚さ : t</th> <th>t1</th> <th>t2</th> <th>t3</th> <th>t4</th> <th>L1</th> <th>L2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28+0.8,-0.5</td> <td>10.1±1.1</td> <td>10.8±1.5</td> <td>8.7±0.9</td> <td>8.7±0.9</td> <td>6.8~13.5</td> <td>7.0~14.0</td> </tr> <tr> <td>30+0.8,-0.5</td> <td>10.8±1.2</td> <td>11.5±1.6</td> <td>9.4±0.9</td> <td>9.4±0.9</td> <td>6.8~13.5</td> <td>7.0~14.0</td> </tr> </tbody> </table>	厚さ : t	t1	t2	t3	t4	L1	L2	28+0.8,-0.5	10.1±1.1	10.8±1.5	8.7±0.9	8.7±0.9	6.8~13.5	7.0~14.0	30+0.8,-0.5	10.8±1.2	11.5±1.6	9.4±0.9	9.4±0.9	6.8~13.5	7.0~14.0
厚さ : t	t1	t2	t3	t4	L1	L2																	
28+0.8,-0.5	10.1±1.1	10.8±1.5	8.7±0.9	8.7±0.9	6.8~13.5	7.0~14.0																	
30+0.8,-0.5	10.8±1.2	11.5±1.6	9.4±0.9	9.4±0.9	6.8~13.5	7.0~14.0																	
	受材 (構造用製材等)	<p>規格 : JAS に規定する針葉樹の構造用製材、造作用製材又は下地用製材 断面寸法 (mm) : 60 以上×45 以上 かさ比重 : 0.38 以上</p>																					
天井被覆材	強化せっこうボード	<p>規格 : 不燃材料認定番号 NM-8615、JIS A 6901 形状 : 平板 表面の形状 : 平滑 端部の形状 : スクエア、ベベル 厚さ (mm) : 15・21±0.5 かさ比重 : 0.75 以上 大きさ (mm) : 最小 910×1,820、最大 1,210×2,730</p>																					

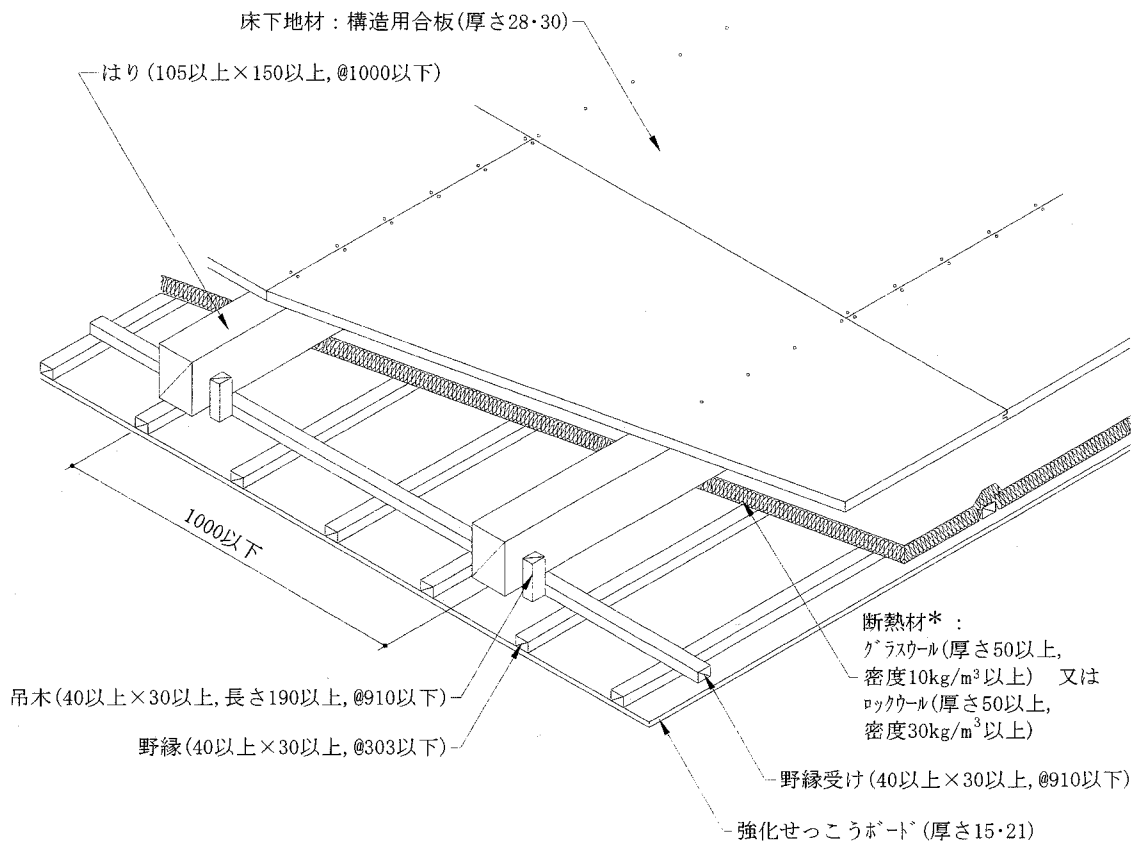
項目		製品仕様等
天井下地材	吊木、野縁受け及び野縁（構造用製材等）	規格：JASに規定する針葉樹の構造用製材、造作用製材又は下地用製材 断面寸法（mm）：40以上×30以上 かさ比重：0.38以上 取付け間隔（mm） 吊木及び野縁受け：910以下 野縁：303以下 吊木の長さ（mm）：190以上
断熱材（必要に応じて使用する。）	グラスウール等	グラスウール 規格：不燃材料認定番号 NM-8605、JIS A 6301、JIS A 9504 又は JIS A 9521 厚さ（mm）：50以上 密度（kg/m ³ ）：10以上 ロックウール 規格：不燃材料認定番号 NM-8600、JIS A 6301、JIS A 9504 又は JIS A 9521 厚さ（mm）：50以上 密度（kg/m ³ ）：30以上
くぎ、タッピンねじ、目地処理材等	くぎ、タッピンねじ等	床下地材取付け用 種類及び寸法（mm） 鉄丸くぎ（φ3.4以上 × L75以上） 留め付け間隔（mm） 床下地材の長辺方向の目地部をさね目地とする場合 周辺部：150以下、中間部：150以下 床下地材の長辺方向の目地部を突付け目地とする（受材を使用する場合） 周辺部：150以下、中間部：200以下 天井被覆材取付け用 種類及び寸法（mm） ・せっこうボード用くぎ（φ2.34以上 × L38.1以上） ・タッピンねじ（φ3.0以上 × L40以上） ・木ねじ（φ3.0以上 × L40以上） 留め付け間隔（mm） 周辺部：150以下、中間部：200以下 吊木取付け用 種類及び寸法（mm） 鉄丸くぎ（φ3.4以上 × L75以上） 留め付け本数：2本以上 野縁受け取付け用 種類及び寸法（mm） 鉄丸くぎ（φ3.4以上 × L75以上） 野縁取付け用 種類及び寸法（mm） 鉄丸くぎ（φ3.05以上 × L65以上） 受材取付け用 種類及び寸法（mm） 鉄丸くぎ（φ3.05以上 × L65以上） 留め付け本数：2本以上
	天井被覆材の目地処理材	種類及び塗布量 せっこう系、炭酸カルシウム系等目地処理材（100g/m以上）
天井裏面空間高さ		300 mm以上

項目		製品仕様等
施工方法	はりの取付け	はり（断面寸法 105 mm以上 × 150 mm以上）を 1,000 mm以下の間隔で配置し、大入れ蟻掛け、大入れ落とし込み、傾ぎ大入れ等の接合で桁に取り付ける。
	床下地材の取付け	①床下地材の長辺方向の目地部をさね目地とする場合 構造用合板は、その短辺方向の目地がはりの直上となるように配置し、φ 3.4 mm 以上 × L75 mm以上の鉄丸くぎを用いてはりに取付ける。 構造用合板の長辺方向相互の目地は、さね接合とし、鉄丸くぎは、周辺部、中間部とも 150 mm以下の間隔で留め付ける。 ②床下地材の長辺方向の目地部を突付け目地とする場合 受材（断面寸法 60 mm以上 × 45 mm以上）を床下地材の構造用合板の長辺方向の目地となる位置に配置し、φ 3.05 mm以上 × L65 mm以上の鉄丸くぎ（2本以上、斜め打ち）ではりに取付ける。構造用合板は、その短辺方向の目地がはりの直上となるように配置し、φ 3.4 mm以上 × L75 mm以上の鉄丸くぎを用いてはり及び受材に取付ける。鉄丸くぎは、周辺部を 150 mm以下の間隔で、中間部を 200 mm以下の間隔で留め付ける。
	天井下地材の取付け	吊木（断面寸法 40 mm以上 × 30 mm以上）をはり間方向に 910 mm以下の間隔で配置し、φ 3.4 mm以上 × L75 mm以上の鉄丸くぎ（2本以上）ではりに取付ける。野縁受け（断面寸法 40 mm以上 × 30 mm以上）をはりと直交する方向に 910 mm以下の間隔で配置し、φ 3.4 mm 以上 × L75 mm以上の鉄丸くぎで吊木に取付ける。野縁（断面寸法 40 mm以上 × 30 mm以上）を野縁受けと直交する方向に 303 mm以下の間隔で配置し、φ 3.05 mm以上 × L65 mm以上の鉄丸くぎで野縁受けに取付ける。
	グラスウール又はロックウール断熱材の敷き込み	必要に応じて、グラスウール又はロックウール断熱材を野縁受け及び野縁の上に隙間なく敷き込む。
	天井被覆材の取付け	天井被覆材の強化せっこうボードをφ 2.34 mm以上 × L38.1 mm以上のせっこうボード用くぎ等で野縁に取付ける。せっこうボード用くぎ等は、周辺部を 150 mm 以下の間隔で、中間部を 200 mm以下の間隔で留め付ける。目地部は、せっこうボード用目地処理材（100g/m 以上）にて平滑に仕上げる。

4. 構造説明図

(1) 床下地材の長辺方向の目地部をさね目地とする場合
①透視図

(単位：mm)

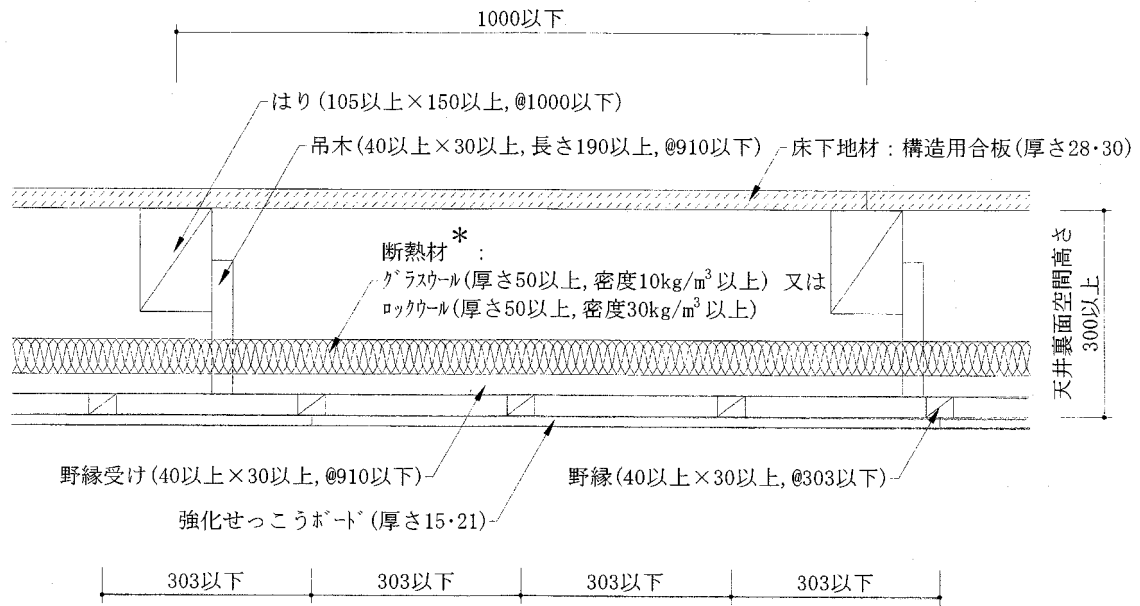


*は必要に応じて使用する。

②断面図

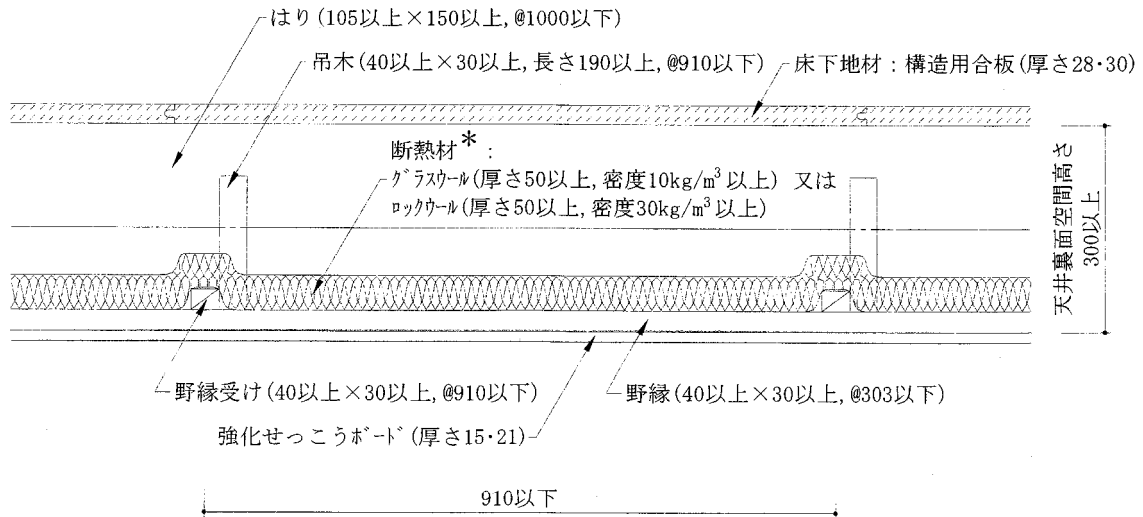
(単位:mm)

②-1 はり直交方向



*は必要に応じて使用する。

②-2 はり並行方向

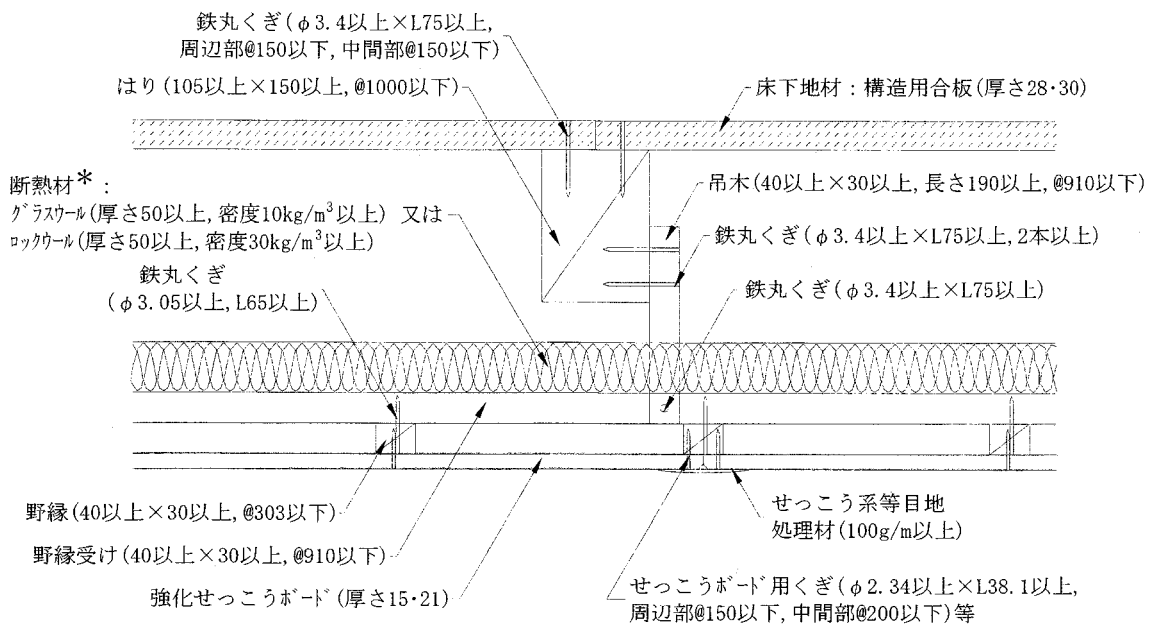


*は必要に応じて使用する。

③断面詳細図

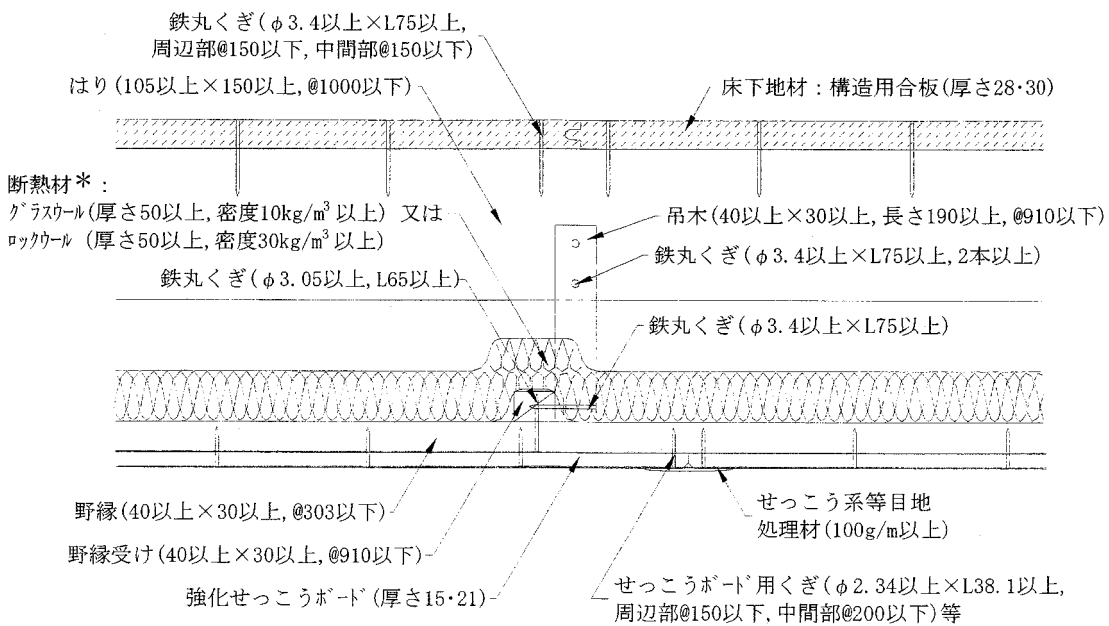
(単位:mm)

③-1 はり直交方向



*は必要に応じて使用する。

③-2 はり並行方向

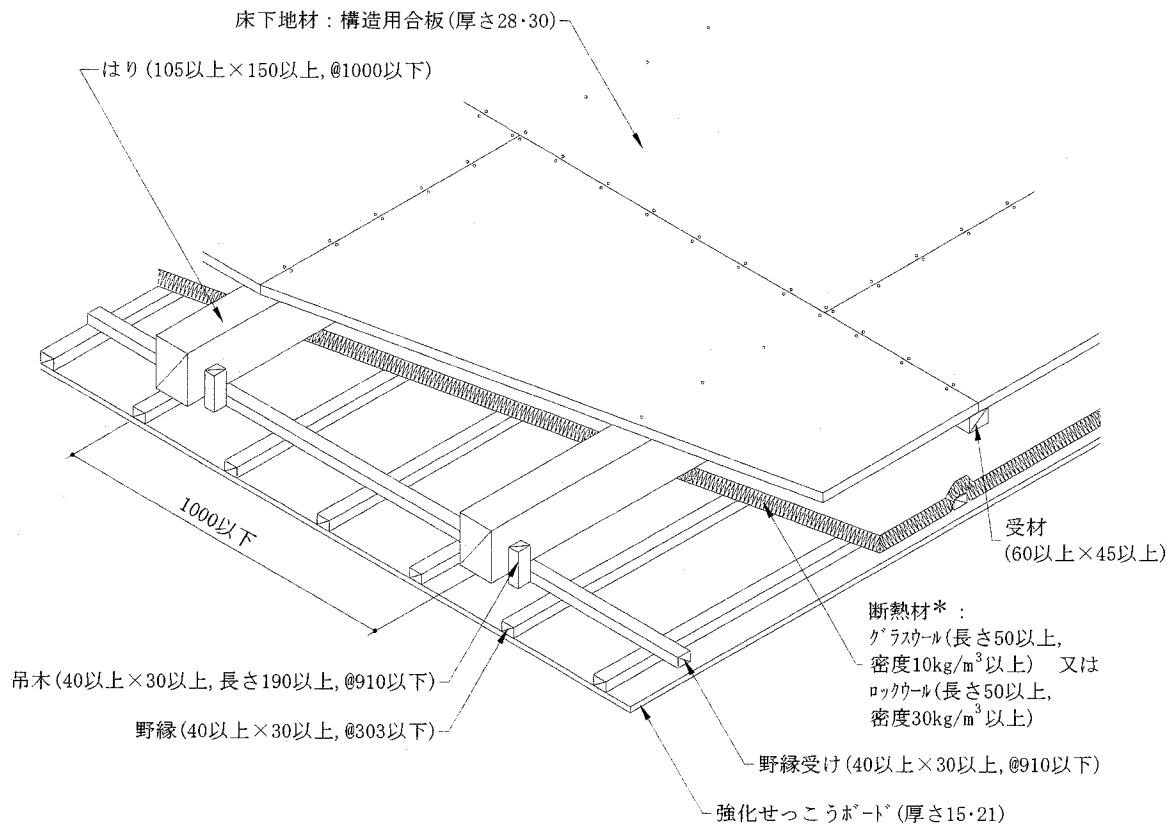


*は必要に応じて使用する。

(2) 床下地材の長辺方向の目地部を突付け目地とする場合

①透視図

(単位:mm)

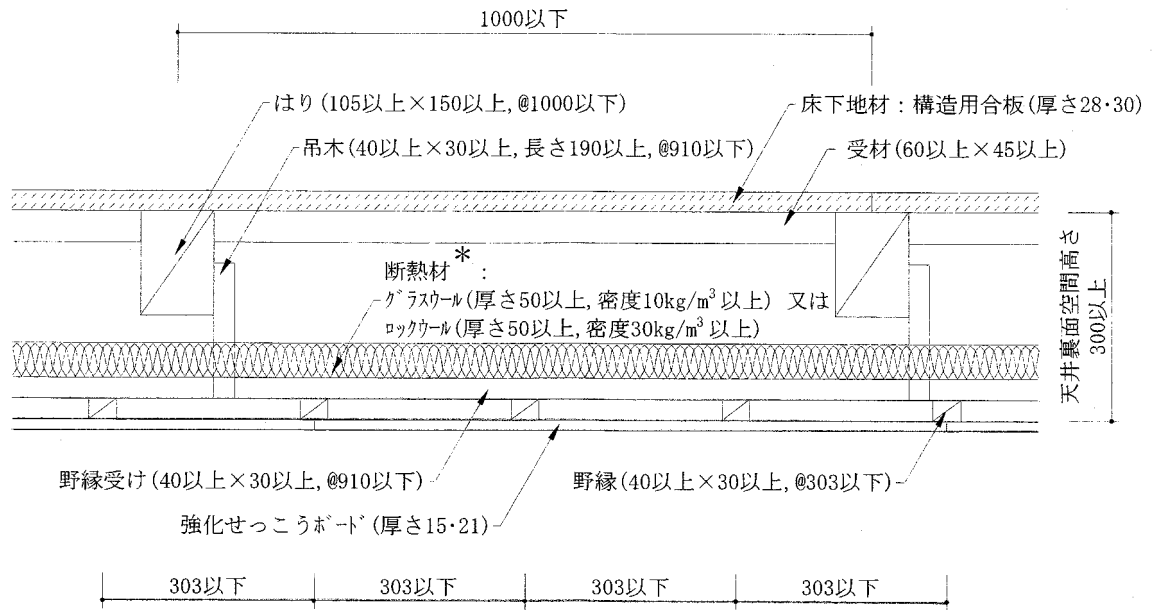


*は必要に応じて使用する。

②断面図

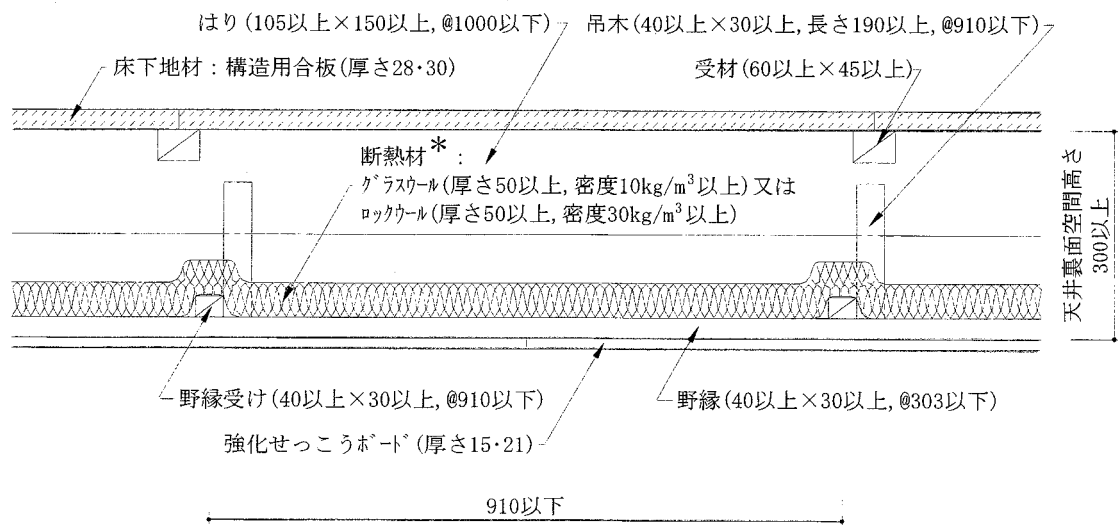
(単位:mm)

②-1 はり直交方向



*は必要に応じて使用する。

②-2 はり並行方向

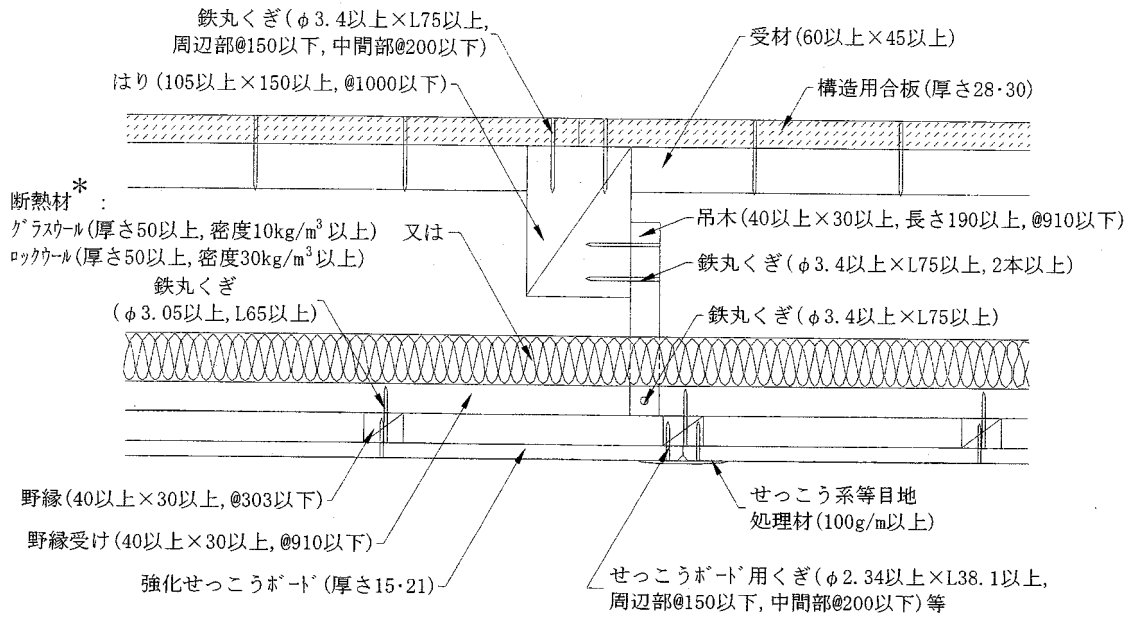


*は必要に応じて使用する。

③断面詳細図

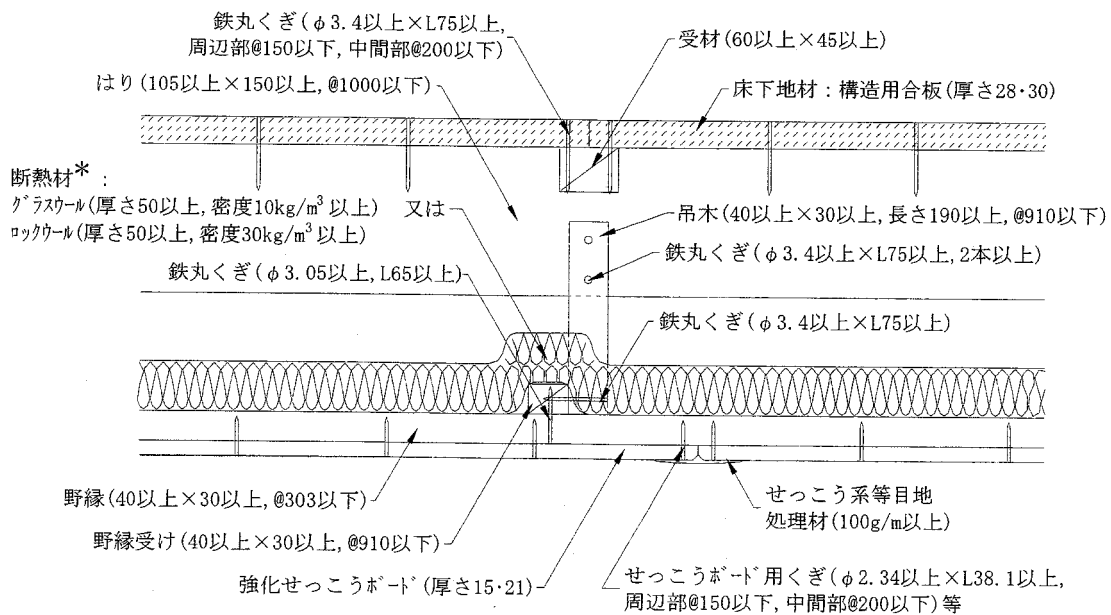
(単位：mm)

③-1 はり直交方向



*は必要に応じて使用する。

③-2 はり並行方向

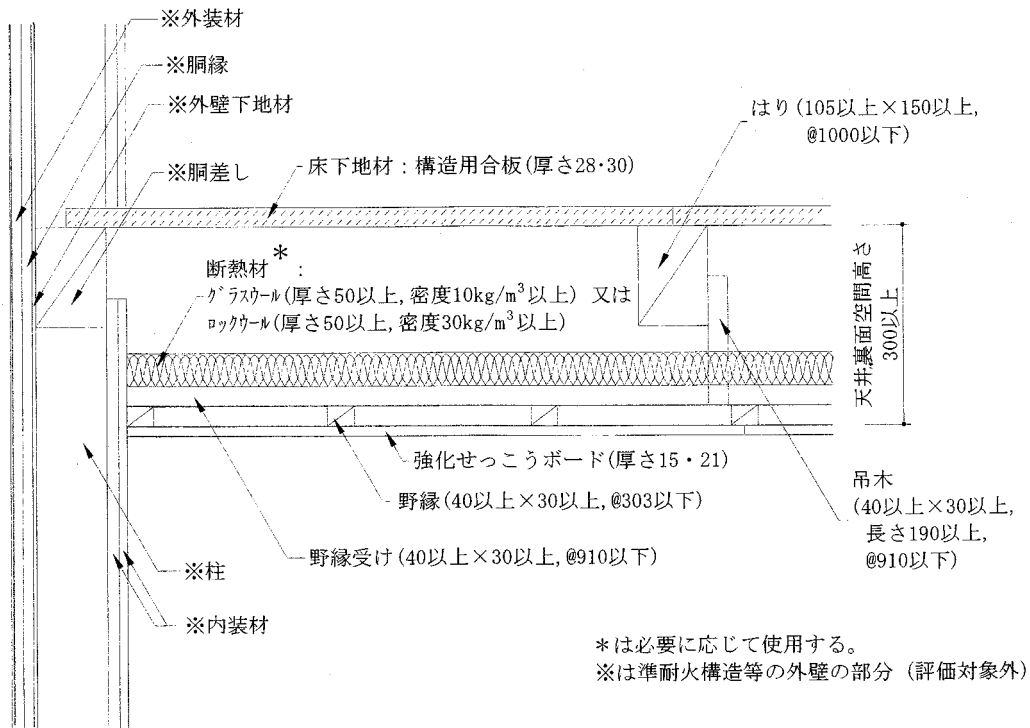


*は必要に応じて使用する。

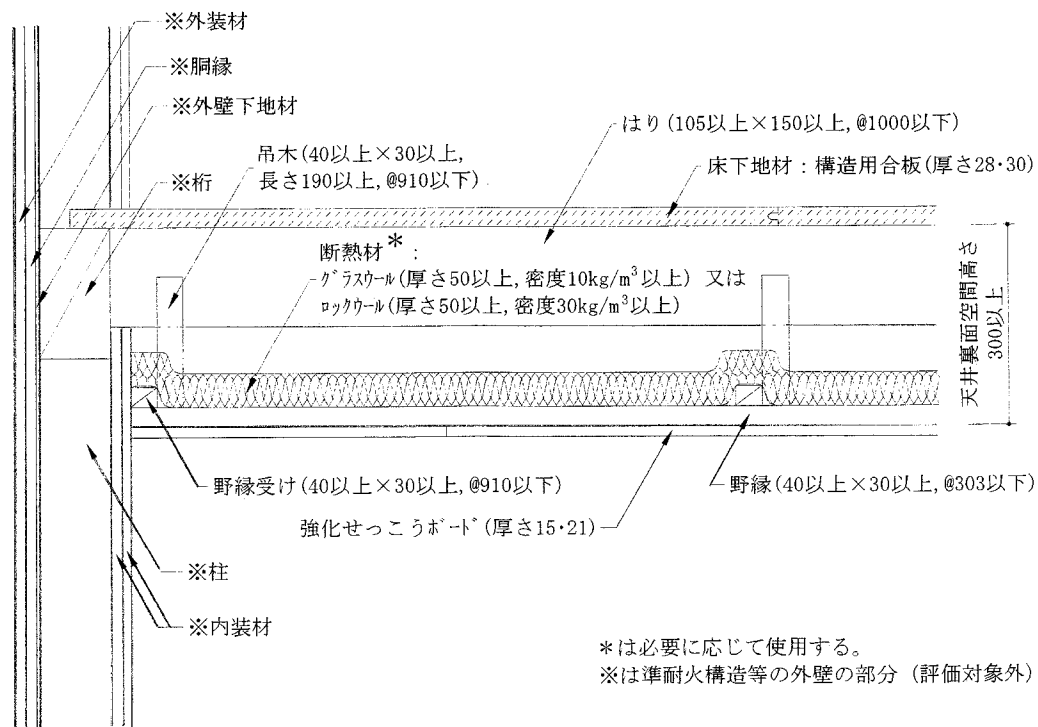
(3) 外壁との納まり (代表例)

(単位: mm)

③-1 はり直交方向

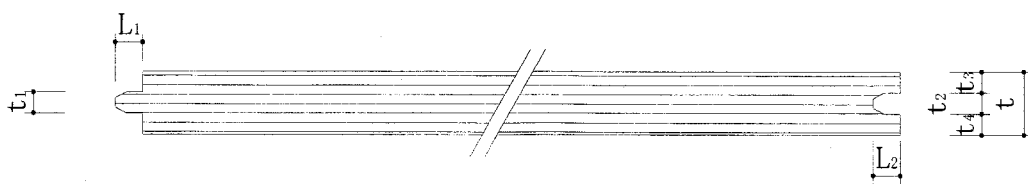


③-2 はり並行方向



(4) 床下地材の構造用合板長辺方向さね加工部の形状及び寸法

①形状



②各部の寸法 (単位: mm)

各部の寸法 (mm)

厚さ: t	t1	t2	t3	t4	L1	L2
28+0.8,-0.5	10.1±1.1	10.8±1.5	8.7±0.9	8.7±0.9	6.8~13.5	7.0~14.0
30+0.8,-0.5	10.8±1.2	11.5±1.6	9.4±0.9	9.4±0.9	6.8~13.5	7.0~14.0

5. 施工方法

(1) はりの取付け

はり（断面寸法 105 mm以上 × 150 mm以上）を 1,000 mm以下の間隔で配置し、大入れ蟻掛け、大入れ落とし込み、傾ぎ大入れ等の接合で桁に取り付ける。

(2) 床下地材の取付け

① 床下地材の長辺方向の目地部をさね目地とする場合

構造用合板は、その短辺方向の目地がはりの直上となるように配置し、 ϕ 3.4 mm以上 × L75 mm以上の鉄丸くぎを用いてはりに取付ける。構造用合板の長辺方向相互の目地は、さね接合とし、鉄丸くぎは、周辺部、中間部とも 150 mm以下の間隔で留め付ける。

② 床下地材の長辺方向の目地部を突付け目地とする場合

受材（断面寸法 60 mm以上 × 45 mm以上）を床下地材の構造用合板の長辺方向の目地となる位置に配置し、 ϕ 3.05 mm以上 × L65 mm以上の鉄丸くぎ（2本以上、斜め打ち）ではりに取付ける。構造用合板は、その短辺方向の目地がはりの直上となるように配置し、 ϕ 3.4 mm以上 × L75 mm以上の鉄丸くぎを用いてはり及び受材に取付ける。鉄丸くぎは、周辺部を 150 mm以下の間隔で、中間部を 200 mm以下の間隔で留め付ける。

(3) 天井下地材の取付け

吊木（断面寸法 40 mm以上 × 30 mm以上）をはり間方向に 910 mm以下の間隔で配置し、 ϕ 3.4 mm以上 × L75 mm以上の鉄丸くぎ（2本以上）ではりに取付ける。野縁受け（断面寸法 40 mm以上 × 30 mm以上）をはりと直交する方向に 910 mm以下の間隔で配置し、 ϕ 3.4 mm以上 × L75 mm以上の鉄丸くぎで吊木に取付ける。野縁（断面寸法 40 mm以上 × 30 mm以上）を野縁受けと直交する方向に 303 mm以下の間隔で配置し、 ϕ 3.05 mm以上 × L65 mm以上の鉄丸くぎで野縁受けに取付ける。

(4) グラスウール又はロックウール断熱材の敷き込み

必要に応じて、グラスウール又はロックウール断熱材を野縁受け及び野縁の上に隙間なく敷き込む。

(5) 天井被覆材の取付け

天井被覆材の強化せっこうボードを ϕ 2.34 mm以上 × L38.1 mm以上のせっこうボード用くぎ等で野縁に取付ける。せっこうボード用くぎ等は、周辺部を 150 mm以下の間隔で、中間部を 200 mm以下の間隔で留め付ける。目地部は、せっこうボード用目地処理材（100g/m 以上）にて平滑に仕上げる。